

市



立



病



院

だ



よ



り



令和5年 3月号

市立病院の診療・患者サービスを支える存在～看護局

当院では地域完結型の医療の提供体制を実現するべく、地域の中核病院が果たすべき役割に基づいて診療機能を整備してきました。

その診療機能を発揮し、患者サービスの向上を推進していくためには、看護師の存在はなくてはならないものです。

近年では、患者ケアだけでなく、専門・認定看護師など一定の研修を修了した看護師がチーム医療の推進役を担うこともあり、病院運営の中でも看護師の役割の重要性は増しています。

今回は、大所帯の看護局のリーダーであり、病院幹部の一員でもある千種看護局長にインタビューしていますので、ぜひご一読ください。



毎月2回、金曜日の早朝に行っている病院周辺の清掃活動。看護局とPFI事業者の有志を中心に、平成18年9月より継続して行っています。

「心が安らぐ看護」「心が通う看護」

「心が届く看護」を合言葉に

— 令和5年1月現在の看護師数を教えてください。



千種 看護局長

昭和58年4月以来、40年に渡って八尾市立病院の看護師として活躍。平成16年ICU師長に就任。その後5階東病棟、8階西病棟の病棟長を経て、平成25年より看護科長、平成28年より看護部次長、平成30年4月より現職。

— まずチーム医療ですが、院内には組織横断的に診療をサポートするチームが多数存在していますが、看護師は欠かせない存在ですね。

また、患者支援の充実のための入退院支援センターなどの増員、病院機能拡充に伴う施設整備において、その拡充された機能の推進役としての看護師の配置が挙げられます。

厚生労働省の「令和2年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況」によると、全国の看護師数（保健師、助産師、准看護師含む）は約166万人で、医療従事者の中では最も多い職種となっています。市立病院にも400名を超える看護師が勤務しており、病院のどこにいても姿を見かける職種です。

一般的に、患者さんが病院の中で最

も接する機会が多いのは看護師であり、その印象が病院の評価に大きく影響するといわれています。

今回はその大所帯のリーダーであるとともに、幹部職員の一員として診療局・事務局とも連携して、市立病院の運営を担っている千種看護局長にお話を伺いました。

正規職員が348名、会計年度任用職員（フルタイム、パート）が65名、計413名の看護師（看護師、助産師、准看護師）が所属しており、今年度も増加しています。

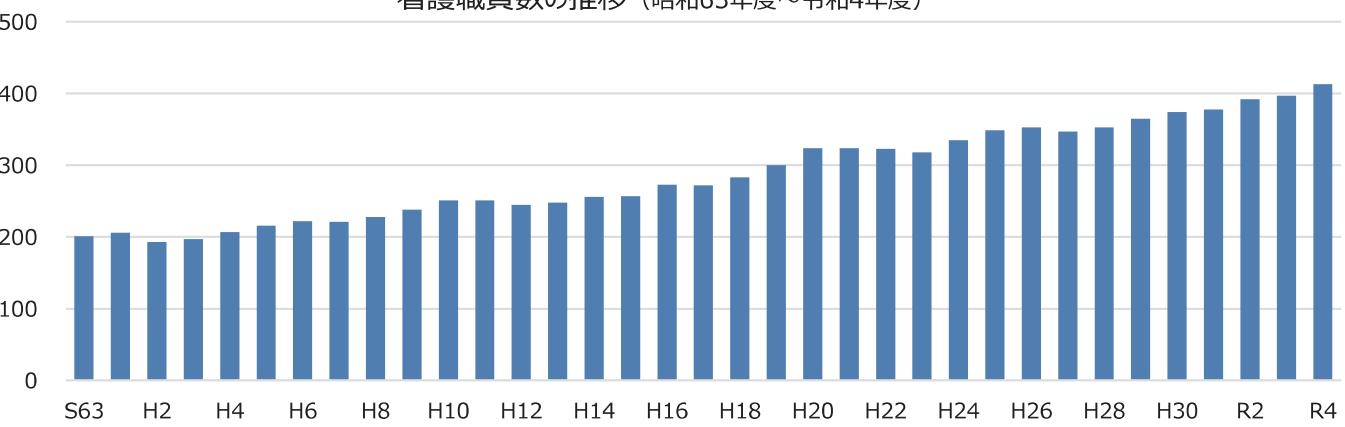
さらに、看護補助者などを含めると、看護局全体としては500名近い職員が所属しています。

— 看護師の増加に伴い、どのような部署・業務で看護師の活躍する場が増えているのでしょうか。

市立病院では急性期医療・政策医療・がん診療を推進するために、多職種連携による様々なチーム医療を行っており、ほとんどのチームに看護師が参画しています。

また、患者支援の充実のための入退院支援センターなどの増員、病院機能拡充に伴う施設整備において、その拡充された機能の推進役としての看護師の配置が挙げられます。

看護職員数の推移（昭和63年度～令和4年度）



チーム医療は現在の医療、特に急性期病院においては必要不可欠となっています。そして、チーム医療の一員として活躍するために、看護師は「4つの力」を備え高める必要があると考えています。

- 患者さんの思いや要望を知るための「ニーズをとらえる力」
- 直接的な支援のための「ケアする力」
- 知り得た情報を他職種と共有するための「協働する力」
- 患者さんが決めた治療選択に関してその選択を支援する「意思決定を支える力」

ついての丁寧な説明が求められるとともに、患者さんに寄り添った適切なサポートが求められます。

- 患者さんを中心に考えると、4つの力をバランスよく身に着けている看護師の方が、安心できますね。
- 多職種と連携するチーム医療で、特に看護師に求められる役割について、どのようにお考えですか。

— 点で行われる治療行為を線でつなぐのは、患者さんの一番近くにいる看護師ならではの役割ですね。

看護師は、24時間365日、患者さんの一番近くでケアや支援を行う職種として、患者さんとチームを結び「コ-ディネーター」的な役割を求められていると考えています。

そして患者さんの「その人らしく生きる」を支え、希望や思いを他の医療職と共有し、患者さんにとって何が最善かとともに考える役割も、益々求められていると感じています。

患者さんの心身の状況をチームに正確に伝える一方、チームとして介入した患者さんの心身の状況の変化を観察し、必要に応じてチームに情報を探してバックするという役割ですね。

— チーム医療では専門・認定看護師の存在も重要視されますね。

チーム医療の中で、各分野の専門的知識・経験を持つ看護師の参画が求められるケースも多くあります。「専門看護師」「認定看護師」「認定看護管理者」は、日本看護協会が国民への質の高い医療の提供を目的に運営する資格認定制度で、医療の高度化や専門化に伴い、活躍する場が増えています。
看護局では資格取得を積極的に推進しており、今年1月現在で16名の資格保有者がいます。

- 一般的に、「看護師」のイメージとしては「ケアする力」が最も重要視されると思うのですが。
- 看護師というと、「ケアする力」の習得・強化が必要と思われがちですが、「ニーズをとらえる力」がなければ独りよがりな看護になってしまいます。
- また、治療効果を上げるために、患者さんに関わる様々な職種のスタッフと「協働する力」が必要です。さらに、現在の医療では治療の選択肢が増えたことにより、各治療に

チーム医療推進委員会 所属チーム一覧

市立病院では「チーム医療推進委員会」を設置し、チーム間の情報共有を図るとともに、年度目標の設定及び成果の確認（発表会）を行っています。委員会の所属チームは下記の通りです。

- がん薬物療法チーム
- 院内感染対策チーム（ICT）
- 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）
- 周術期血栓対策チーム（VTE）
- 栄養管理チーム（NST）
- 褥瘡対策チーム
- 緩和ケアチーム
- 糖尿病診療チーム
- 入退院支援チーム
- 認知症ケアチーム
- 排尿ケアチーム
- 摂食嚥下支援チーム
- 院内迅速対応対策チーム
- 報告書確認対策チーム
- 術後疼痛管理対策チーム
- 入院時重症患者対応チーム

専門・認定看護師

看護局では、チーム医療の推進や質の高い看護業務の実現をめざし、専門・認定看護師の養成にも積極的に取り組んでいます。

現在の資格保有者数は下記の通りです。

• 認定看護管理者	3名
• 皮膚・排泄ケア認定看護師（特定行為研修修了）	1名
• 感染管理認定看護師	1名
• 手術看護認定看護師	1名
• 緩和ケア認定看護師	2名
• がん化学療法看護認定看護師	2名
• 糖尿病看護認定看護師	1名
• 乳がん看護認定看護師	1名
• 認知症看護認定看護師	1名
• がん放射線療法看護認定看護師	1名
• 摂食・嚥下障害看護認定看護師	1名
• 集中ケア認定看護師	1名

一 次に、入退院支援センターですが、近年、多くの病院が機能の充実に取り組まれていますね。

医療機関の機能分化が求められる中、入院治療が必要な患者さんに適切な医療を提供するためには、入院前からの支援が重要になってきます。

例えば、「入院前に必要な心身・物質面での準備」、「入院診療計画の説明と理解」、「退院見込み及び退院後の治療・療養生活に関する必要な事項」など、多くの患者さんにとっては経験の無い情報が大量に押し寄せてきます。

そこで、入院が決まった時点（入院前）からのサポートを行う入退院支援センターの存在が重要になってしまいます。

看護師というと、以前は入院期間中の患者さんとの関わりが中心だったのですが、現在では外来から入院時の生活、更に退院を見据えた支援が必要と考えており、多方面での看護師の活躍が求められていると感じています。

八尾市立病院 機能拡充工事

市立病院ではこれまで、急性期医療・政策医療・がん診療の機能強化など医療の質の向上や、患者サービスの向上を目的とした、様々な改修工事を行ってまいりました。以下にその一部を紹介します。

【北館増築】

平成27年3月、駐輪場のあった場所に北館（増築棟）完成。大会議室・防災倉庫・院内保育ルームなど、診療機能以外のスペースを本館から移設。



【通院治療センター移設・増床】

平成27年6月、本館4階の屋上庭園に面したスペースに通院治療センターを移設。ベッドも9床から16床に増床。



【入退院支援センター移設・拡充】

令和4年3月、2階にあった地域医療連携室と入退院支援センターを1階に移設し拡充。個別の説明スペースも多数設置。



【令和4年度 実施工事】



2階外来スペースに中央処置室を新設



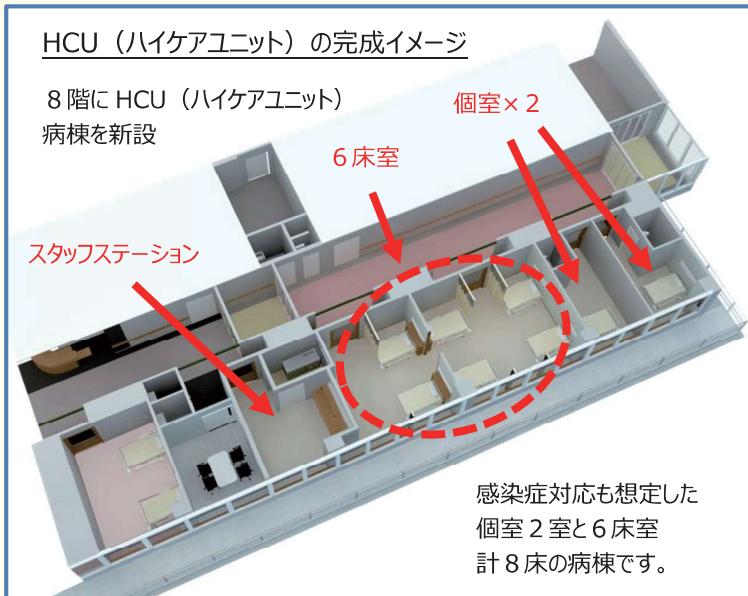
内視鏡センターの拡充（回復用ベッド増床）

— 入退院支援では最近、「PFM（ペイシエント・フロー・マネジメント）」という言葉をよく聞きますが。

入院前から積極的に患者さんに関わり、外来の時点から患者さんの入退院を支援する「PFM（ペイシエンター・フロー・マネジメント）」に取り組んでいます。

PFMのポイントは入院前に患者さんにに関する情報を「できるだけ多く集める」ことです。

集めた情報を整理することにより、患者さんは入院生活や自分が受ける治療計画・退院の日程をイメージし、必要な準備をした上で、入院に臨めることがメリットとして挙げられます。



— 入退院支援センターもそうです
が、ここ数年、市立病院の機能拡充に向けた様々な院内改修が行われる中で、看護師の必要性・重要性も高まっていますね。

今年度も内視鏡センターの拡充、中央処置室の設置、HCU（ハイケアユニット）病棟の新設などがあり、急性期医療の推進役として看護師の活躍の場が広がっています。

特にHCU病棟については、救急対応力向上や術後患者のケア充実に加え新興感染症への対応など、重症患者への手厚い看護体制が必要です。人員配置面では大変ですが、当院として強化が必要な機能ですので、4月からスマーズに運用できるよう体制を整えていきます。

まず病棟編成と人員配置、どの病棟で患者さんを受け入れ、誰が対応するかの判断が必要でした。

当院は感染症の対応病棟を有しており、一般病棟に未知の感染症である新型コロナの患者さんを受け入れることになり、一般の入院患者さんと同時に対応することへの不安が大きい状況でした。特にがん患者さんなどの免疫力の低下している患者さんや、分娩のために入院される妊婦さんへの院内感染は、絶対に防がなければならぬとを考えました。

そこで、「正しく恐れる」をポイントに、防護服の着脱訓練を行ふとともに、ゾーニングの工夫によりレッドゾーンを明確にするなど、安心して患者対応ができるよう、心理的安全性と物理的安全性を整えることに力を入れました。

— 入退院支援センターもそうです
が、ここ数年、市立病院の機能拡充に向けた様々な院内改修が行われる中で、看護師の必要性・重要性も高まっていますね。

時の流れは早く、あれから3年が経過していることに驚いています。

感染対応病棟へ配置するスタッフには、面談や希望の聞き取りなどを丁寧に行いました。

看護局長として何よりもありがとうございました。

しかし、管理的な立場からは、一部に偏ることなく、全員で支えるためにローテーションが必要と考え、担当するスタッフは定期的な異動を行いました。今では全部署のスタッフが感染症対応に自信をもつて対応できるようになり、結果的には人材育成の一環になりました。

— 入退院支援では最近、「PFM（ペイシエント・フロー・マネジメント）」という言葉をよく聞きますが。

入院前から積極的に患者さんに関わり、外来の時点から患者さんの入退院を支援する「PFM（ペイシエンター・フロー・マネジメント）」に取り組んでいます。

今年度も内視鏡センターの拡充、中央処置室の設置、HCU（ハイケアユニット）病棟の新設などがあり、急性期医療の推進役として看護師の活躍の場が広がっています。

特にHCU病棟については、救急対応力向上や術後患者のケア充実に加え新興感染症への対応など、重症患者への手厚い看護体制が必要です。人員配置面では大変ですが、当院として強化が必要な機能ですので、4月からスマーズに運用できるよう体制を整えていきます。

まず病棟編成と人員配置、どの病棟で患者さんを受け入れ、誰が対応するかの判断が必要でした。

当院は感染症の対応病棟を有しており、一般病棟に未知の感染症である新型コロナの患者さんを受け入れることになり、一般の入院患者さんと同時に対応することへの不安が大きい状況でした。特にがん患者さんなどの免疫力の低下している患者さんや、分娩のために入院される妊婦さんへの院内感染は、絶対に防がなければならぬとを考えました。

そこで、「正しく恐れる」をポイントに、防護服の着脱訓練を行ふとともに、ゾーニングの工夫によりレッドゾーンを明確にするなど、安心して患者対応ができるよう、心理的安全性と物理的安全性を整えることに力を入れました。

— ここからはコロナ禍についてお聞きします。流行初期（まだどのような感染症か良く分かつていなかった時期）、入院患者の受け入れに伴う人員配置や感染対策でご苦労されたことについて、教えてください。

聞きました。流行初期（まだどのような感染症か良く分かつていなかった時期）、入院患者の受け入れに伴う人員配置や感染対策でご苦労されたことについて、教えてください。

— 医療従事者としては、厚生労働省の発信する情報を基に、できる限りの安全性の確保に取り組まれたところですね。とはいっても、実際に看護に従事するスタッフの方の心理的な負担は大きかったと思われます。

— PCR検査などの受け入れを始めた時も、同様にご苦労されたと思います。

当時の記憶をたどれば、検査できるスペースを確保することが大きな課題でした。当院は元々、感染対応を想定した建物の構造になつていなかったため、ソーフェンに苦慮しました。検討の結果、救急外来の駐車場スペースに仮設テントを設置し対応を始めることになりました。

人員配置は病棟と同じくローテーションにより、同じスタッフが長期



新型コロナのPCR検査を開始した当時。救急外来の駐車場に仮設テントを設置し風雨を防げる環境を整えるのが精一杯で、寒暖対策や通行の安全対策等、不安なままのスタートとなった。



コロナ対応をする際の個人防護具を装着した看護師。通気性のない防護服・N95マスク・アイガード等を装着しており、勤務環境的には厳しい状態が続いている。

間勤務しないよう工夫しました。救急外来のスタッフや病棟からのリリーフナースで対応しましたが、慣れ

ない環境で、さらに夏は防護服を着ると汗だく、冬になれば木枯らしが吹き荒れる極寒の中で震えながらの業務となりました。スポットクーラーやヒーターの設置等、多くの支援で劣悪な環境は改善されてきているものの、まだまだ大変な状況は続いている。

— PPE(個人防護具)を着用した状態の長時間の勤務は大変ですね。

看護師だけではあります。看護師だけではありませんが、病院としてスタッフの体調管理は大きな課題と考えています。

— コロナ禍が長期化する中で、看護局の運営でご苦労されていることを教えてください。

N95マスクを着用した状態では、継続した看護を行うのは非常に厳しいものがあります。看護師だけではありませんが、病院としてスタッフの体調管理は大きな課題と考えています。

— コロナ禍が日常化する中で、スタッフ自身の感染、または濃厚接触者となりた場合は出勤できない状況になりますので、業務継続のための人員確保や病棟間の柔軟なリリーフ体制など、看護局全体の協力体制が継続的に必要となっています。

— コロナ禍が日常化する中で、スタッフ自身の感染、または濃厚接触者となりた場合は出勤できない状況になりますので、業務継続のための人員確保や病棟間の柔軟なリリーフ体制など、看護局全体の協力体制が継続的に必要となっています。

— ここまででは医療現場での看護師の活躍面についてお伺いしました。ここからは組織的なお話についてお聞きしていきます。看護局の運営方針を教えていただけますか。

看護局の理念として、「地域住民のニーズを尊重し、療養と暮らしを支える心ある看護の提供」と、「高度で良質な医療に伴った看護の推進」、そして「看護の力を活かし公立病院として品格ある病院運営の実践」を掲げています。



毎日オンラインで行っている調整会議

— 看護師は、患者さんと最も多く接する職種ですが、接遇面で重要視していることを教えてください。

— 「心」をテーマに患者さんとの繋がりを大切にした、素晴らしいキャッチフレーズですね。

また、看護局では「心安らぐ看護」「心が通う看護」「心が届く看護」をキャッチフレーズとしています。目には見えない「心」に意識を傾け、一人一人の患者さんの思いに寄り添い、専門職としての知識・技術・態度を磨き続ける…、そんな看護師であり続けたいという思いを込めています。

— 「心」をテーマに患者さんとの繋がりを大切にした、素晴らしいキャッチフレーズですね。

朝一番は、病棟や外来などで申し送りを受けた師長が、夜間のトラブルなど必要な情報を看護局に伝えると共に、ベッドの空き状況や入院予定など病床管理に必要な情報を共有し、予定入院や緊急入院に備える、いわゆるベッドコントロールを行っています。

— オンライン会議など、コロナ禍という逆風の中でICTの活用は進みましたね。

オンライン会議では、院内のある場所から簡便にアクセスできるメリットを活かし、効率的かつタイムリーな情報共有とスマートなコミュニケーションが実現できています。移動時間の省略だけでなく、コミュニケーションの機会 자체も増え、意思疎通も図りやすくなっています。

理念やキャッチフレーズは、市立病院で働く看護師の最も重要な指針です。新人看護師のオリエンテーションの中では、私（看護局長）自ら「心」を込めて伝えるようにしています。

— 看護局の1日の業務はどのように運営されているのですか。

午後3時半からの調整会議で行います。日々の看護局全体での情報共有は午後3時半からの調整会議で行います。夜間の空床状況確認とインシデントや他部門からの情報提供など、以前は看護師長室に集まって行っていたが、感染対策から現在はオンライン会議を行っています。

— 市立病院の看護局の特長を教えていただけますか。

外來部門と病棟部門に副看護局長を配置し、現場との連携を担つてもらっています。目的は、現場の課題や問題発生の際にタイムリーに情報を共有することです。その結果、原因・要因の把握や、改善に向けた対策検討もスマートに行えています。

— 看護局接遇委員会では「八尾スタイル」として外見的なスタイルをモ

ロロナ禍においては急な休みや当日の検査の調整も行います。安全に業務を進められるように人員体制の調整も行っています。

日々の看護局全体での情報共有は午後3時半からの調整会議で行います。夜間の空床状況確認とインシデントや他部門からの情報提供など、以前は看護師長室に集まって行っていたが、感染対策から現在はオンライン会議を行っています。

— 市立病院の看護局の特長を教えていただけますか。

外來部門と病棟部門に副看護局長を配置し、現場との連携を担つてもらっています。目的は、現場の課題や問題発生の際にタイムリーに情報を共有することです。その結果、原因・要因の把握や、改善に向けた対策検討もスマートに行えています。

また、看護師の明るく優しい対応について良い評判をいただいており、職務満足度も高いと感じています。

他施設と比較すると離職率も低く、全国平均の11.5%に対し、当院は5.9%とかなり低くなっています。職員の定着化が進み平均年齢は40歳、経験豊かな看護職が揃っているのも特長であると考えています。

一 千種看護局長は3月で定年を迎えますが、今後の看護局へのメッセージがあればお願ひします。

看護師は人間対人間の関係性から成り立つ職業であり、人間の本質について考える機会も多くあります。

儒教の教えに「過ぎたるは猶(なお)及ばざるが如し」があります。何事も「やり過ぎる」ことは、「やり足りない」ことと同程度に良くないという意味で、看護局のメンバーには、「バランスが大切」という考え方を大事にして欲しいと伝えています。

また、同じく儒教で説かれている

「五徳(仁・義・礼・智・信)」も常に心に留めた看護局の運営を心掛けたいだきたいと思っています。

▼ 仁 → 人を思いやり

(仁に過ぎれば弱くなる)

▼ 義 → 利欲にとらわれず

(義に過ぎれば固くなる)

▼ 礼 → 礼節を重視し

(礼に過ぎれば詎いとなる)

▼ 智 → 知識は人なり

(智に過ぎれば嘘をつく)
(信に過ぎれば損をする)

一 ありがとうございました。

市民医療公開講座（八尾市・柏原市）

知つておきたい「がんの知識」

日時：令和5年3月11日（土）14:00～16:00
※相談・体験コーナーは13:30～17:00

会場：八尾市文化会館 プリズムホール 地下2階小ホール
八尾市光町2丁目40番地 TEL.072-924-5111

事前申し込み不要

定員150名

参加無料

【市長挨拶】 大松 桂右（八尾市長）
富宅 正浩（柏原市長）

【開会挨拶】 佐々木 洋（八尾市立病院 特命総長）

■ 講演① 肺がん治療の最前線～薬物療法を中心とした治療～
司会 石原 英樹（八尾徳洲会総合病院 副院長）
演者 瓜生 恭章（八尾徳洲会総合病院 副院長 腫瘍内科部長）

■ 講演② 肝がん治療の最前線～肝機能を考えた集学的治療～
司会 石川 哲郎（市立柏原病院 病院事業管理者）
演者 田守 昭博（市立柏原病院 病院長代理）

■ 講演③ 大腸がん治療の最前線～ロボット支援手術～
司会 藤田 淳也（八尾市立病院 副院長）
演者 吉岡 慎一（八尾市立病院 外科部長）

■ Q&Aコーナー
(皆さんの疑問にお答えいたします！)
司会 星田 四朗（八尾市立病院 総長）
田村 茂行（八尾市立病院 特命院長）

■ ディスカッサンント
瓜生 恭章（八尾徳洲会総合病院 副院長 腫瘍内科部長）
田守 昭博（市立柏原病院 病院長代理）
吉岡 慎一（八尾市立病院 外科部長）
千種 保子（八尾市立病院 看護局長）

【閉会挨拶】 福井 弘幸（八尾市立病院 病院長）



八尾市立病院経営計画の
策定について

令和5年度においては、総務省から通知された「公立病院経営強化ガイドライン」を踏まえて、当院としても新たな経営計画を策定する予定をしております。

令和4年度 八尾市立病院 緩和ケア研修会

がんサバイバーお二人による講演

参加無料

「言葉にならない声を聞く」

～仲間で話し合える場を作るには～

司会：八尾市立病院 特命院長 田村 茂行

演者1 恒石 真希（つねいし まさき）さん

演者2 津野 采子（つの あやこ）さん

日時：令和5年3月11日（土）

12:45～13:45【予定】（※受付12時～）

会場：八尾市文化会館 プリズムホール 4階会議室1

定員：現地50名、

Web参加先着500名まで

対象：一般の方、医療・介護従事者

参加費：無料



【申し込み方法】

WEB参加可能

下記URLまたはQRコードから
予約サイトにアクセスいただき、
必要事項をご記入のうえお申し込みください。

■現地参加

<https://coubic.com/yaohp/877168>



■Web参加

<https://coubic.com/yaohp/821265>



※ 申し込みは随時受付です。定員になり次第、申し込みを締め切ります。

※ 講演のスクリーンショット、録画、録音はご遠慮ください。

※ 配布資料の複製・転用・再配布はご遠慮ください。

主催：八尾市立病院 緩和ケアセンター運営委員会／
がん相談支援センター／就労支援運営部会

問合せ： ☎ 072-922-0881（代表）